

## 大阪市立新庄小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

本校は、現在18学級(内特別支援学級6学級、通級指導1学級)児童数268名の中規模校である。東淀川区のほぼ中心に位置し、阪急上新庄駅と隣接しており交通の便のよい地域である。校区には古くからの街並みと新しくできたマンションが混在し、ここ数年は児童数が減少傾向にある。地域住民の学校に対する思いは熱く強く、学校とともに取り組む行事は多い。地域の祭りや見守り隊の活動などを通し、町ぐるみで子どもを育てていくといった文化が受け継がれている。

**【安全・安心な教育の推進】**に関わって

- ・児童のいじめに対する意識は高い。教職員間の情報共有が充実し児童理解が進んでいる。関係諸機関との連携も安定して機能しており深刻ないじめや問題行動は減少している。しかし不登校児童は増加傾向にある。更に児童や家庭への支援体制を整えていく。
- ・きまりやルールを守ろうとする児童の意識は非常に高い。引き続き教職員全員が同じ基準で指導できる体制を構築していく。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**に関わって

- ・主体的対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を取り入れた授業の成果を実感できている児童は多いとは言えない。校内研究を充実させ授業改善を図っていく。
- ・教員の指導力が高まり、特に国語科において学力の着実な向上がみられる。理科や外国語(英語)の学習に肯定的な児童も増えており、更なる教員の授業力の向上を図り、個別最適な学習を工夫していく。
- ・運動やスポーツに対して肯定的な児童は増えている。本校の特徴ある取り組みを工夫、継続し、体力向上につなげていく。
- ・自主学習を促す取り組みにより、児童の家庭学習に向かう姿勢は徐々に定着している。更に児童が自主的に学習に向かう取り組みを継続していく。

**【学びを支える教育環境の充実】**に関わって

- ・全学年で、一人一台学習者用端末を様々な用途で活用することが定着してきている。課題や改善点等を教職員で共有し、更なる活用を図っていく。
- ・勤務時間についての教職員の意識の改善が図られ、時間外勤務時間は減少している。今後も労働状況の改善を図り、より効率的な働き方を工夫していく。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

○令和11年度の全国学力・学習状況調査の「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、82.2%にする。  
(令和7年度全国学力・学習状況調査 81.8%)

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

○令和11年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80.7%にする。  
(令和7年度学力経年調査 平均80.3%)、令和7年度末校内調査 平均87.5%)

○令和 11 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和 7 年度より 0.4 ポイント向上させる。

(令和 7 年度 男子-2.5 ポイント、女子-3.2 ポイント、平均-2.85 ポイント)

### 【学びを支える教育環境の充実】

令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」の項目について、週 3 回以上と回答する児童の割合を、18.3%以上にする。

(令和 7 年度学力経年調査 平均 17.9%、令和 7 年度末校内調査 データなし)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88.3%以上にする。(令和 7 年度学力経年調査 平均 88.2%)

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

(令和 7 年度校内調査 2.04% 6/278)

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77.6%以上にする。(令和 7 年度学力経年調査 平均 77.5%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。

(令和 7 年度学力経年調査 3年+1.3、4年+1.2、5年+0.9、6年+4.5)

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。

(令和 7 年度学力経年調査 3年-0.8、4年±0、5年-0.7、6年+1.5)

○小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80.4%にする。(令和 7 年度学力経年調査 平均 80.3%)

○年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82.4%以上にする。

(令和 7 年度学力経年調査 平均 82.3%) (年度目標アンケート 平均○%)

○年度目標アンケートにおける「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.0%以上にする。(令和 7 年度学力経年調査 データなし)

### 【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 18.0%以上にする。

(令和 7 年度学力経年調査 平均 17.9%)

○教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 18 時間以下とする。

(令和 7 年度 月平均時間外勤務時間 累計 18 時間 11 分)

3 本年度の自己評価結果の総括

**【安全・安心な教育の推進】**

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

**【学びを支える教育環境の充実】**

## 大阪市立新庄小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88.3%以上にする。 (令和7年度学力経年調査 平均 88.2%)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (令和7年度校内調査 2.04% 6/278)</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77.6%以上にする。 (令和7年度学力経年調査 平均 77.5%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○集会や夏のつどい、オリエンテーリング、六年生を送る会など、にこにこ班(たて割り班)による活動を実施し、異学年間の交流を促進するとともに、明るく楽しい雰囲気づくりを図る。</p>	
<p>指標</p> <p>○学期に1回以上、異学年間の交流活動をする。 (校内調査による、「学校が楽しい」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○不登校など、児童の様子について教職員間で交流し、共通理解をはかる。ケースによってはスクールカウンセラーやこども相談センター等とも連携していく。</p>	
<p>指標</p> <p>○区役所、管理職に加え、担任も参加するスクリーニング会議Ⅱに学期に1度実施する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○帰りの会での「きりりさん発表」や日々の道徳の授業、日常的な声かけを通して、自己肯定感が高まるようにする。</p>	
<p>指標</p> <p>○道徳科の授業において、自己肯定感の高まる声かけをする。 (校内調査による、「自分にはよいところがある」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。)</p>	

令和8年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

## 大阪市立新庄小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。 (令和7年度学力経年調査 3年+1.3、4年+1.2、5年+0.9、6年+4.5)</p> <p>○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。 (令和7年度学力経年調査 3年-0.8、4年±0、5年-0.7、6年+1.5)</p> <p>○小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80.4%にする。 (令和7年度学力経年調査 平均 80.3%)</p> <p>○年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82.4%以上にする。 (令和7年度学力経年調査 平均 82.3%) (年度目標アンケート 平均○%)</p> <p>○年度目標アンケートにおける「規則正しい生活(「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること)」が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.0%以上にする。 (令和7年度学力経年調査 データなし)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 家庭学習強調週間を設定し、全学年で、学年に応じた家庭学習と自学自習の習慣化に取り組む。その際、保護者PTAや進学先中学校とも組織的に連携する。</p> <p>指標</p> <p>○学期に1回、家庭学習強調週間を設定する。 (令和8年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外にふだん1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか」の項目について、「30分以下もしくは全くしない」と答える児童の割合を前年度より減少させる。) (令和5年度 17.5%⇒令和6年度 20.1%⇒令和7年度 19.7%)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を取り入れた授業に取り組み、学力向上をめざす。</p>	

<p>指標 ○学期に1回以上、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を行う。 (小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80.4%にする。) (令和7年度学力経年調査 平均80.3%)</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 全校あげての体力づくりや、児童の考えたアイデア等、委員会活動による呼びかけを行い、児童が自主的に取り組める活動を工夫する。</p>	
<p>指標 ○年間2回シャトルランの調査を行う。 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、特に課題であるシャトルランの調査を3～6年生は3学期に再度実施し、1学期の平均ポイントよりも、7ポイント向上させる。) (令和7年度1学期：27.9 ⇒3学期：39.8 11.9ポイント向上)</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 校内外の体育科に関連する研修会に参加し、体育科授業の改善を図り、児童の体力向上に繋げていく。</p>	
<p>指標 本校教職員のいずれかが学期に3回以上体育科に関連する研修会や研究発表会に参加する。また、年間2回以上体育科に関する校内研修会を実施する。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 「規則正しい生活」の大切さについて児童、保護者に啓発するために、関連する便りなどを学校ホームページへ掲載する。</p>	
<p>指標 ほけんだよりや給食だよりなど「規則正しい生活」に関連する便りを学期に2回以上学校ホームページに掲載する。</p>	
<p>令和8年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p> </p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p> </p>	

## 大阪市立新庄小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 18.0%以上にする。 (令和 7 年度学力経年調査 平均 17.9%)</p> <p>○教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 18 時間以下とする。 (令和 7 年度 月平均時間外勤務時間 累計 18 時間 11 分)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 ICT 機器 (一人一台端末) を効果的に活用した学びの教育実践に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○3～6 年生で月 2 回以上、授業において、一人一台端末を活用した取り組みを行う。 (デジタル教科書、カメラの使用、調べ学習、発表ノートの活用等で、校内アンケートにおいて一人一台端末を使用したと肯定的に答える児童の割合を 60%以上にする。)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の働き方改革を行い、労働環境を整え、時間外勤務を減少させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○週 1 回ゆとりの日を設定する。 (時間外勤務の 18 時間をこえない割合を 80%以上にする。)</p>	

令和 8 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点